

ボールあそび/的たおし

教科・場面

体育

授業・実践のねらい

- ★自分なりの方法でボールに働きかけたり操作したりして、友だちとボールの受け渡しをしたり、リング等に入れたり、ものを倒したりする。
- ★教師や友だちと一緒にボールを使って身体を動かすことの楽しさを表出する。

対象の児童・生徒

- ・小学部 1 年

教材・教具

- ・ランプ（右用・左用）
- ・ボール（いろいろな大きさ、硬さ、空気圧）
- ・ベルピン、児童机

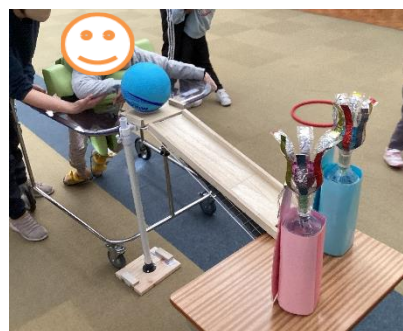
工夫したところ

- ・児童の自発的な身体の動きでボールを操作できるようにランプの形状を工夫した。
- ・ピンまでの距離を短くすることで、ボールを押す⇒ボールが転がる⇒ピンが倒れる関係が分かりやすくなるように教材の配置を工夫した。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

【ボールあそび（的たおし）】

- 座位保持椅子や SRC-W、介助立位など、児童の上肢の動きを引き出しやすい姿勢をとる。
- 児童自らの身体の動きでボールに働きかけることができるように、台の高さ、位置を調整する。
- ボールがピンに当たり、倒れることが見て分かりやすいように、児童の視線の位置を基に、机の高さを調整する。
- 慣れてきたら、台の高さや位置を調整することで、難易度を調整する。



授業・実践を通じた児童生徒の変容

- 児童の可動域の範囲内で操作することができるため、何度か練習に取り組む中で自発的にボールに働きかけようとする児童が増えてきた。また、ピンまでの距離が短く、目の前で音を出して倒れるため、ボールを転がすこととピンが倒れることとの関係に気づけた児童もいた。ボールを置く台の高さを変えることができるため、いろいろな高さ、角度への上肢の動きを引き出すことができた。